

区の評価及び意見(区役所地域担当)

【 住吉 区】 (受託者:住吉区社会福祉協議会)

1 取組実績の評価(1)

項目	ア 支援実績に対する評価	イ 支援の有効性に対する評価	ウ 課題分析と改善策等に対する評価
<p>(1)「I 地域課題への取組」にかかる支援の実施状況</p> <p>「自律的運営に</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催 28年度についても社会福祉協議会のこれまでの実践ベースを活かしながら『地域編集塾』の手法を用い、構成団体間での情報共有や共感の場を創出し、協働喚起を促すことや定期的な話し合いの場の定着を目的に開催され、参加者へのアンケート結果では、『地域編集塾』は「いかがでしたか？」の項目にて「良かった」等が27年度86%から28年度90%となっており、定期的な話し合いの場の必要性についての認識も向上していることから評価できる。 ただし、スーパーバイザーに頼るところが多く、スーパーバイザーと地域の日程調整も容易でなく、また、今年度は初めて住吉区総合防災訓練を実施したこともあり、地域においても模擬訓練等で調整が難しかったことから、実施回数が少なくなったことは残念である。</p> <p>【区内全体会】 過去3年間に開催した際に導き出されたデータを基に現状の地域実情を鑑みテーマ設定し開催され、各々テーマについても、掘り下げを行い事業の立案を実施。地域新聞やHPの作成等、実現可能な事業案も多く立案され、定期的な話し合いの場の必要性について、着実に認識も向上していると評価する。</p> <p>【荊田北ほほえみ協議会】 若い世代が多数出席された全体会を受けて開催した『地域編集塾』は、特に若年層への参加をはたらきかけたことで、通常はほとんど参加されない現役世代が約半数を占めるなど、幅広い市民参画の促進、地域における担い手育成や、人材育成において貢献しており評価できる。 また、ホームページの作成やSNSを活用しての会議案内など具体的な実現可能な事業案が多数立案されたことは、現役世代の負担を軽減する上で必要であり、今後は中間支援組織の支援により実施されることを期待する。</p> <p>◆地域福祉の推進 派遣元の区社協が受託事業実施を行っている『地域見守り支援システム』の構築について、綿密な連携を図りながら、受託者が区役所と地域とのパイプ役を果たすなど側面的支援を行っており、事業がスムーズに進んでいる。今後も側面的支援に期待する。</p> <p>◆『“地活協”シンポジウム』～『地域活動協議会』の未来を想像してみませんか？～の開催 地活協の設立趣旨について、役員継承などにより意識の低下がみられるため、再確認・共有の場を提供し、より自律・自立の組織運営へと導かれるように促すことを目的に開催され、参加者へのアンケート結果では、「シンポジウムは参考になりましたか？」の項目にて参加者の90%が「参考になった」と回答し、その他意見では「特徴的な取組みは参考になった」「地域活性には若い世代の参加が不可欠」など肯定的意見が多数見られ、CB/SBや特徴的な活動・従事者確保のための取組みなどへの認識の向上といった効果が得られたことは評価できる。</p>	<p>『地域編集塾』の開催</p> <p>【区内全体会】 地域状況に応じ、出席者数に偏りがでたものの区内全12地域から総勢66名もの出席があり、地活協の中核を担っている役員層の出席が多いものの、PTAや青少年指導員など若い層への声かけを強く依頼したため、例年に比べ若年層の参加が多くなったことは、中間支援の目的の1つである「若い世代などの市民参画の促進、担い手育成、人材育成に寄与した」と評価できる。 また、事業を立案したことで事業実施に向けて、より具体的になり、地域が活性化されたといった効果が見られたことは評価できる。</p> <p>【荊田北ほほえみ協議会】 役員・運営委員以外の方も対象としたため、普段は参加されないPTAや事業従事者も多く参加し、新たなつながり、また、拡がりが見られ、支援は有効であったと評価できる。 また、参加者へのアンケート結果では「今後も参加したいですか？」の項目にて「参加したい」が87%となるなど、話し合いの場の重要性を感じられており、継続的開催の運びとなったことは評価できる。</p> <p>◆地域福祉の推進 『地域見守り支援システム』構築にかかる会議への参加やふれあい喫茶等の地域福祉活動への訪問等を通じて従事者との連携も図れており、受託者が地域とのパイプ役を果たしてくれることで、事業がスムーズに進んでいる。今後も中間支援組織の側面的支援に期待する。</p> <p>◆『“地活協”シンポジウム』～『地域活動協議会』の未来を想像してみませんか？～の開催 先駆的実践者からの具体的な活動の講演により、今後の地域運営に対してのヒントを得たという参加者も多く、地域課題の解決につながると推測され評価できる。 また、「今まで自分の活動に自負していたが、まだまだやるべきことがあると感じた。」や「補助金の有効活用することだけにとらわれていたが、幅広い活動に接して目からうろこが落ちた感じがした。」との感想も多くあり、地活協の運営が定着しつつある設立4年目のこの時期に開催したことは、地活協の役割や地域課題を再確認する上で効果があったと評価できる。</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催 事業案の創出を目的とする『地域編集塾』の手法を基本とし、地域に定着する話し合いの場のスタイルを提案していくことは、地域課題に取り組み解決していく上で有効であるため、継続していくことを期待する。 事業案の創出だけで終わらず、事業の実現に向けても優先度・時間軸・人数軸等で分析をし、協働(コラボ)先とのマッチングの機会を設けるなど支援を強化していくことについては、どのような形、場を設け協働先とマッチングを行うかなど具体的な方法等、提案されることを期待する。</p> <p>◆地域福祉の推進 今後も、地域・区役所・区社協と連携を深め、中間支援組織の側面的支援を継続することを期待する。</p> <p>◆『“地活協”シンポジウム』～『地域活動協議会』の未来を想像してみませんか？～の開催 行政や中間支援組織からの情報伝達より、実践者の声の影響力は強く、先駆的実践者による活動報告や同じ事業に従事する実践者間での話し合いの場を多く創出することにより地域間による相乗効果が得られるため、今後も取組みを進めていくことを期待する。 課題として、このような会を開催しても事業案の参考とはなるが、具体的な事業の実施までには至っていない。今後は、事業が実施されるための具体的なプロセスの提案まで行われることを期待する。</p>

事業の実施状況 向けた地域活動協議会の取組(イメージ)	(2)「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の実施状況	<p>◆地域活動協議会の広報 新たな地活協広報用のパンフレットを作成し、更に区役所 地域課を通じてUR等マンションへの配架ができたことは評価する。 今後の地活協の認知度向上のためには、配架先の拡充の必要があるため、より一層の広報活動を期待する。 また、広報「すみよし」において、地域のベストプラクティスを寄稿し好事例の周知に努めていることは、新たな事業の実施を検討している地域の活性化や、つながりを拡充させることになり評価する。</p> <p>◆Twitterによる地域情報の発信 各地域で開催の事業を事前告知や現地・後日レポートを実施し、区内情報についても、リツイートするなど地活協の認知度アップに貢献しており評価する。また、シルバー世代などはSNSよりも紙媒体を好む傾向も見られるが、若い世代においてはSNSによる広報活動が身近で効果的と思われるため、継続することを期待する。</p> <p>◆地域事業にかかる広報物作成支援 地域によっては、地域新聞作成やホームページ作成に向けての動きがみられ、作成に向けて各地域の実情に合わせた支援を実施していることは評価する。 また、周知・募集ポスターや注意喚起のポスター作成等の支援も行っており、つながりを拡充する方法として、今後もより一層の支援を期待する。</p> <p>◆地域主催事業への参加・事業実施にかかる支援 事業実施の運営委員会等会議へ出向き、情報提供を実施している。また、事業実施についても、中間支援組織として地域と区役所との連携に向けての連絡調整を行えていることを評価している。</p>	<p>◆地域活動協議会の広報 著しい伸びには欠けるが、認知度向上の努力をされており、引き続きの広報活動を期待する。 ただし、今後、『見せ方』『見え方』の工夫についての支援の必要性があるため、具体的な方策の提案を期待する。</p> <p>◆Twitterによる地域情報の発信 情報発信機能としては、受託者は弱く感じ、地域情報をツイッターに投稿することにより従事者の喜びにつながっている側面も見えることより、既に事業等に従事している地域住民のつながりや充実に寄与していることから、活動の有効性を評価できる。</p> <p>◆地域事業にかかる広報物作成支援 地域での担い手の確保や担い手と役員層における世代間の連携にかかる調整を行い、緩やかにではあるが進展がみられたことは、つながりの拡充に寄与しており評価する。</p> <p>◆地域主催事業への参加・事業実施にかかる支援 他地域での経験を活かした情報提供を実施し、相談を受け、アドバイスを実施したことは評価する。</p>	<p>地活協運営についても、地域差はあるものの定着が見られつつあることは評価でき、新たな担い手の発掘や、若い担い手の育成を目的とした講座やセミナー等、具体的な提案を期待する。</p>
	(3)「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の実施状況	<p>◆運営委員会等への出席 議事進行にかかる助言や議事録フォーマットの作成、提供等により、適切に説明・個別支援を行っている。また、地域会議に従事することで、地域実態やニーズの把握が行え、適切な組織運営を行うための関係機関との連絡調整も実施できており評価できる。</p> <p>◆補助金実務者会議の開催 マニュアル・会計帳票・監査様式等を提供し、適切に説明・個別支援を行っている。会計処理にかかる説明についても、区内全体版・地域版・各事業担当者版と、地域へ出向くなど、顔の見える関係を築き、きめ細やかに行っており評価できる。</p> <p>◆事務手続き等にかかる助言 補助金申請や精算に関して、説明会を総括会計担当者のみならず、各地域に出向き、地域や相談者に合わせて工夫しており評価できる。 また、CB/SBの公募事業への参加・受託にかかる事務手続きについても、将来的に地活協が自律的な組織運営を行うにあたり必要な自主財源の獲得に向け、地域の状況にあわせて支援を行っており評価できる。</p>	<p>◆運営委員会等への出席 地活協会長会議にも従事していることから、運営委員会等において、依頼事項の補足説明を行うなどスムーズな議事進行に寄与しており評価できる。</p> <p>◆補助金実務者会議の開催 継続的な支援の結果、総括会計担当者については、補助金の会計処理において着実にスキルが向上している。また、補助金の公平性、透明性の確保にむけて効果をあげており評価できる。</p> <p>◆事務手続きにかかる助言 日常的に地域へ頻繁に出向き、地域の情報の聞き取りや支援のニーズの把握を行っていることから、各地域実情に応じた支援が行えており評価できる。補助金申請については、定着しつつあるが、精算については、煩雑であるためいまだ苦慮されていることから、今後は精算においても更なる支援を期待している。 CB/SBの公募事業での手続きは、書類が多数必要で、支援の必要性が強いいため、今後は具体的にどのような支援が必要であるのか提案を期待する。</p>	<p>◆運営委員会等への出席 議事進行にかかる助言や議事録フォーマットの作成、提供等により、適切に説明・個別支援を行っており一定の組織運営ができる体制は構築されたが、地域の事情等により強みや弱みが顕著となっており、今後は地域担当制職員、区役所担当課と継続的に連携を図り、引き続き地域に即した支援の提供を期待する。</p> <p>◆補助金実務者会議の開催 マニュアル・会計帳票・監査様式等を提供し、適切に説明・個別支援を行っているが、会計担当者の変更に耐えうる、具体的支援の提案と、より多くの人を対象とする補助金実務者会議の実施を期待する。</p> <p>◆事務手続き等にかかる助言 地域に頻繁に出向き、ニーズ等を把握していることから、日常的な支援は十分に実施しているが、補助金申請・精算については、手続が煩雑であるため、今後は自律的な運営ができるための支援を期待する。 また、CB/SBの公募事業に関しても、ビジネスの手法を用いることから引き続き継続的な支援の必要性があるため、ニーズに応じた総合的な支援を期待する。</p>
	(4)「Ⅳ 区独自取組」にかかる支援の実施状況 (区が「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」において設定したもの)			

2 取組実績の評価(2)

項目	ア 支援実績に対する評価	イ 支援の有効性に対する評価	ウ 課題分析と改善策等に対する評価
<p>(1) 自由提案による地域支援の実施状況 <small>(企画提案書(事業計画書)等で受託者が提案したもの)</small></p>	<p>◆『地域編集塾』の開催 28年度についても社会福祉協議会のこれまでの実践ベースを活かしなが『地域編集塾』の手法を用い、構成団体間での情報共有や共感の場を創出し、協働喚起を促すことや定期的な話し合いの場の定着を目的に開催され、参加者へのアンケート結果では、『『地域編集塾』はいかがでしたか?』の項目にて「良かった」等が27年度86%から28年度90%となっており、定期的な話し合いの場の必要性についての認識も向上していることから評価できる。 ただし、スーパーバイザーに頼るところが多く、スーパーバイザーと地域の日程調整も容易でなく、また、今年度は初めて住吉区総合防災訓練を実施したこともあり、地域においても模擬訓練等で調整が難しかったことから、実施回数が少なくなったことは残念である。</p> <p>【区内全体会】 過去3年間に開催した際に導き出されたデータを基に現状の地域実情を鑑みテーマ設定し開催され、各々テーマについても、掘り下げを行い事業の立案を実施。地域新聞やHPの作成等、実現可能な事業案も多く立案され、定期的な話し合いの場の必要性について、着実に認識も向上していると評価する。</p> <p>【荻田北ほほえみ協議会】 若い世代が多数出席された全体会を受けて開催した『地域編集塾』は、特に若年層への参加をはたらきかけたことで、通常はほとんど参加されない現役世代が約半数を占めるなど、幅広い市民参画の促進、地域における担い手育成や、人材育成において貢献しており評価できる。 また、ホームページの作成やSNSを活用しての会議案内など具体的で実現可能な事業案が多数立案されたことは、現役世代の負担を軽減する上で必要であり、今後は中間支援組織の支援により実施されることを期待する。</p> <p>◆『“地活協”シンポジウム』～『地域活動協議会』の未来を想像してみませんか?～の開催 地活協の設立趣旨について、役員継承などにより意識の低下がみられるため、再確認・共有の場を提供し、より自律・自立の組織運営へと導かれるように促すことを目的に開催され、参加者へのアンケート結果では、「シンポジウムは参考になりましたか?」の項目にて参加者の90%が「参考になった」と回答し、その他意見では「特徴的な取組みは参考になった」「地域活性には若い世代の参加が不可欠」など肯定的意見が多数見られ、CB/SBや特徴的な活動・従事者確保のための取組みなどへの認識の向上といった効果が得られたことは評価できる。</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催</p> <p>【区内全体会】 地域状況に応じ、出席者数に偏りがでたものの区内全12地域から総勢66名もの出席があり、地活協の中核を担っている役員層の出席が多いものの、PTAや青少年指導員など若い層への声かけを強く依頼したため、例年に比べ若年層の参加が多くなったことは、中間支援の目的の1つである「若い世代などの市民参画の促進、担い手育成、人材育成に寄与した」と評価できる。 また、事業を立案したことで事業実施に向けて、より具体的になり、地域が活性化されたといった効果が見られたことは評価できる。</p> <p>【荻田北ほほえみ協議会】 役員・運営委員以外の方も対象としたため、普段は参加されないPTAや事業従事者も多く参加し、新たなつながり、また、拡がりが見られ、支援は有効であったと評価できる。 また、参加者へのアンケート結果では「今後も参加したいですか?」の項目にて「参加したい」が87%となるなど、話し合いの場の重要性を感じられており、継続的開催の運びとなったことは評価できる。</p> <p>◆『“地活協”シンポジウム』～『地域活動協議会』の未来を想像してみませんか?～の開催 先駆的实践者からの具体的な活動の講演により、今後の地域運営に対してのヒントを得たという参加者も多く、地域課題の解決につながると推測され評価できる。 また、「今まで自分の活動に自負していたが、まだまだやるべきことがあると感じた。」や「補助金の有効活用することだけにとらわれていたが、幅広い活動に接して目からうろこが落ちた感じがした。」との感想も多くあり、地活協の運営が定着しつつある設立4年目のこの時期に開催したことは、地活協の役割や地域課題を再確認する上で効果があったと評価できる。</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催</p> <p>事業案の創出を目的とする『地域編集塾』の手法を基本とし、地域に定着する話し合いの場のスタイルを提案していくことは、地域課題に取り組み解決していく上で有効であるため、継続していくことを期待する。 事業案の創出だけで終わらず、事業の実現に向けても優先度・時間軸・人数軸等で分析をし、協働(コラボ)先とのマッチングの機会を設けるなど支援を強化していくことについては、どのような形、場を設け協働先とマッチングを行うかなど具体的な方法等、提案されることを期待する。</p> <p>◆『“地活協”シンポジウム』～『地域活動協議会』の未来を想像してみませんか?～の開催 行政や中間支援組織からの情報伝達より、実践者の声の影響力は強く、先駆的实践者による活動報告や同じ事業に従事する実践者間での話し合いの場を多く創出することにより地域間による相乗効果が得られるため、今後も取組みを進めていくことを期待する。 課題として、このような会を開催しても事業案の参考とはなるが、具体的な事業の実施までには至っていない。今後は、事業が実施されるための具体的なプロセスの提案まで行われることを期待する。</p>

<p>事業の実施体制等</p>	<p>(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制</p>	<p>欠員なく配置できている。また、スーパーバイザーとの連携についても良好である。</p>	<p>アドバイザーの指示のもと、3名の支援員が連携・協力しながら業務を遂行している。 欠員なく適正に配置できている、スーパーバイザーとの連携についても良好である。</p>	<p>欠員なく現体制を確保することと連携・協力関係を維持することは必要であると考えます。 引き続き現体制の確保を継続してほしい。</p>
	<p>(2-2)フォロー(バックアップ)体制等</p>	<p>『地域編集塾』等で臨時的に増員が必要な場合は、受託元の住吉区社会福祉協議会や区内地域包括支援センター・コミュニティソーシャルワーカーや市社協・他区社協が受託している他区まちづくりセンターへ協力要請を行うなど関係先や協力先とのフォロー体制が構築できている。 また、欠員や問題・課題が生じた場合は、住吉区社会福祉協議会への連絡を行い速やかな対処ができている。</p>	<p>『地域編集塾』では、社会福祉協議会のこれまでの実勢をベースに、ファシリテーターを務めるなどフォローアップ体制は、充分であった。</p>	<p>フォローアップ体制は充分であり、これは組織力のなせることであり、現体制の維持が必要であると考えます。</p>
	<p>(3) 区のマネジメントに対応した取組</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催 28年度についても社会福祉協議会のこれまでの実践ベースを活かしながら『地域編集塾』の手法を用い、構成団体間での情報共有や共感の場を創出し、協働喚起を促すことや定期的な話し合いの場の定着を目的に開催され、参加者へのアンケート結果では、『地域編集塾』は「いかがでしたか？」の項目にて「良かった」等が27年度86%から28年度90%となっており、定期的な話し合いの場の必要性についての認識も向上していることから評価できる。 ただし、スーパーバイザーに頼るところが多く、スーパーバイザーと地域の日程調整も容易でなく、また、今年度は初めて住吉区総合防災訓練を実施したこともあり、地域においても模擬訓練等で調整が難しかったことから、実施回数が少なくなったことは残念である。</p> <p>【区内全体会】 過去3年間に開催した際に導き出されたデータを基に現状の地域実情を鑑みテーマ設定し開催され、各々テーマについても、掘り下げを行い事業の立案を実施。地域新聞やHPの作成等、実現可能な事業案も多く立案され、定期的な話し合いの場の必要性について、着実に認識も向上していると評価する。</p> <p>【荻田北ほほえみ協議会】 若い世代が多数出席された全体会を受けて開催した『地域編集塾』は、特に若年層への参加をはたらきかけたことで、通常はほとんど参加されない現役世代が約半数を占めるなど、幅広い市民参画の促進、地域における担い手育成や、人材育成において貢献しており評価できる。 また、ホームページの作成やSNSを活用しての会議案内など具体的で実現可能な事業案が多数立案されたことは、現役世代の負担を軽減する上で必要であり、今後は中間支援組織の支援により実施されることを期待する。</p> <p>◆社会的ビジネス 自主財源確保による地域活動協議会の自立運営に向けた支援については、3つの地域活動協議会において実施しており、順調に事業を行えていることから評価できる。 また、『“地活協”シンポジウム』に刺激を受け平成29年度の公募事業には、3事業に4つの地域活動協議会が申請準備を進めており、拡がりが見られていることから、今後の中間支援組織の支援に期待する。</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催</p> <p>【区内全体会】 地域状況に応じ、出席者数に偏りがでたものの区内全12地域から総勢66名もの出席があり、地活協の中核を担っている役員層の出席が多いものの、PTAや青少年指導員など若い層への声かけを強く依頼したため、例年に比べ若年層の参加が多くなったことは、中間支援の目的の1つである「若い世代などの市民参画の促進、担い手育成、人材育成に寄与した」と評価できる。 また、事業を立案したことで事業実施に向けて、より具体的になり、地域が活性化されたといった効果が見られたことは評価できる。</p> <p>【荻田北ほほえみ協議会】 役員・運営委員以外の方も対象としたため、普段は参加されないPTAや事業従事者も多く参加し、新たなつながり、また、拡がりが見られ、支援は有効であったと評価できる。 また、参加者へのアンケート結果では「今後も参加したいですか？」の項目にて「参加したい」が87%となるなど、話し合いの場の重要性を感じられており、継続的開催の運びとなったことは評価できる。</p> <p>◆社会的ビジネス 自主財源確保による地域活動協議会の自立運営に向けた支援と『“地活協”シンポジウム』の開催を契機に、多くの地域において社会的ビジネス(CB/SB)への関心が高まり地域活動においても活性化し、新たな公募申請へとつながっており、支援は有効であったと評価できる。</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催</p> <p>事業案の創出を目的とする『地域編集塾』の手法を基本とし、地域に定着する話し合いの場のスタイルを提案していくことは、地域課題に取り組み解決していく上で有効であるため、継続していくことを期待する。 事業案の創出だけで終わらず、事業の実現に向けても優先度・時間軸・人数軸等で分析をし、協働(コラボ)先とのマッチングの機会を設けるなど支援を強化していくことについては、どのような形、場を設け協働先とマッチングを行うかなど具体的な方法等、提案されることを期待する。</p> <p>◆社会的ビジネス ビジネスの手法を用いており事務手続きが煩雑であるため、継続的な支援に期待する。</p>

3 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)に関する評価

支援策(取組)名称	ア 支援実績に対する評価	イ 支援の有効性に対する評価	ウ 課題分析と改善策等に対する評価
『地域編集塾』等ワークショップの開催	<p>◆『地域編集塾』の開催 28年度についても社会福祉協議会のこれまでの実践ベースを活かしながら『地域編集塾』の手法を用い、構成団体間での情報共有や共感の場を創出し、協働喚起を促すことや定期的な話し合いの場の定着を目的に開催され、参加者へのアンケート結果では、『『地域編集塾』はいかがでしたか?』の項目にて「良かった」等が27年度86%から28年度90%となっており、定期的な話し合いの場の必要性についての認識も向上していることから評価できる。</p> <p>ただし、スーパーバイザーに頼るところが多く、スーパーバイザーと地域の日程調整も容易でなく、また、今年度は初めて住吉区総合防災訓練を実施したこともあり、地域においても模擬訓練等で調整が難しかったことから、実施回数が少なくなったことは残念である。</p> <p>【区内全体会】 過去3年間に開催した際に導き出されたデータを基に現状の地域実情を鑑みテーマ設定し開催され、各々テーマについても、掘り下げを行い事業の立案を実施。地域新聞やHPの作成等、実現可能な事業案も多く立案され、定期的な話し合いの場の必要性について、着実に認識も向上していると評価する。</p> <p>【荻田北ほほえみ協議会】 若い世代が多数出席された全体会を受けて開催した『地域編集塾』は、特に若年層への参加をはたらきかけたことで、通常はほとんど参加されない現役世代が約半数を占めるなど、幅広い市民参画の促進、地域における担い手育成や、人材育成において貢献しており評価できる。</p> <p>また、ホームページの作成やSNSを活用しての会議案内など具体的で実現可能な事業案が多数立案されたことは、現役世代の負担を軽減する上で必要であり、今後は中間支援組織の支援により実施されることを期待する。</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催</p> <p>【区内全体会】 地域状況に応じ、出席者数に偏りがでたものの区内全12地域から総勢66名もの出席があり、地活協の中核を担っている役員層の出席が多いものの、PTAや青少年指導員など若い層への声かけを強く依頼したため、例年に比べ若年層の参加が多くなったことは、中間支援の目的の1つである「若い世代などの市民参画の促進、担い手育成、人材育成に寄与した」と評価できる。</p> <p>また、事業を立案したことで事業実施に向けて、より具体的に、地域が活性化されたといった効果が見られたことは評価できる。</p> <p>【荻田北ほほえみ協議会】 役員・運営委員以外の方も対象としたため、普段は参加されないPTAや事業従事者も多く参加し、新たなつながり、また、拡がりが見られ、支援は有効であったと評価できる。</p> <p>また、参加者へのアンケート結果では「今後も参加したいですか?」の項目にて「参加したい」が87%となるなど、話し合いの場の重要性を感じられており、継続的開催の運びとなったことは評価できる。</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催</p> <p>事業案の創出を目的とする『地域編集塾』の手法を基本とし、地域に定着する話し合いの場のスタイルを提案していくことは、地域課題に取り組み解決していく上で有効であるため、継続していくことを期待する。</p> <p>事業案の創出だけで終わらず、事業の実現に向けても優先度・時間軸・人数軸等で分析をし、協働(コラボ)先とのマッチングの機会を設けるなど支援を強化していくことについては、どのような形、場を設け協働先とマッチングを行うかなど具体的な方法等、提案されることを期待する。</p>
補助金実務者会議会計説明会	<p>煩雑な会計処理については、まだ苦慮されているところが多く、また、会計に関する情報伝達が各事業担当者まで十分行き渡っていない状況が見られるため、説明会の対象者枠の拡大、地域に出向いての説明会や個別支援等きめ細やかに実施されたことについて、継続的に資料提供や記入例を作成しつつ、自主的な組織運営を促すこともできており評価できる。</p>	<p>地域差はあるものの、当初多くの担当者が抱いていた「やらされてる」感から「やるべきもの」「しないといけないこと」へと会計処理に対するイメージに変化が見られたことは、地域に出向くなどの支援が有効であったと評価できる。今後は、更なる自主的な組織運営を促す支援に期待する。</p>	<p>総括会計担当者のスキルや意識の向上は多く見受けられるが、各事業担当者との温度差があるため、よりきめ細やかに各事業担当者へのアプローチを行う必要がある。今後も地域へ出向き顔の見える関係の中、資料提供や記入例による継続的な支援に期待する。</p>
地域見守り支援システム(地域福祉の推進)	<p>社会福祉協議会の強みを活かし、区社協・地域支援担当など各部門とも緊密に連携しており、地域福祉の取組みや会議にも参画し、つながりの拡充に寄与しており評価できる。今後は、区社協全体で取り組み作成している、地域の情報が記載された地域台帳を地域診断に反映させ、地域ごとのきめの細かい支援につなげることを期待する。</p>	<p>介護事業所や社会福祉法人を巻き込んだ会議・ワークショップも開催や検討がされ、地域福祉の充実に向けたネットワークづくりに関して社会福祉協議会の強みを活かした、中間支援組織の側面的支援が行えており、支援は有効であったと評価する。</p>	<p>今後も、社会福祉協議会の強みを活かし、地域・区役所との橋渡し機能を発揮した、中間支援組織の側面的支援に期待する。</p>
社会的ビジネス	<p>自主財源確保による地域活動協議会の自立運営に向けた支援については、3つの地域活動協議会において実施しており、順調に事業を行えていることから評価できる。</p> <p>また、『“地活協”シンポジウム』に刺激を受け平成29年度の公募事業には、3事業に4つの地域活動協議会が申請準備を進めており、拡がりが見られていることから、今後の中間支援組織の支援に期待する。</p>	<p>自主財源確保による地域活動協議会の自立運営に向けた支援と『“地活協”シンポジウム』の開催を契機に、多くの地域において社会的ビジネス(CB/SB)への関心が高まり地域活動においても活性化し、新たな公募申請へとつながっており、支援は有効であったと評価できる。</p>	<p>ビジネスの手法を用いており事務手続きが煩雑であるため、継続的な支援に期待する。</p>

4 取組効果の評価(アウトカムに対する評価)[上記3の内容も含めて]

項目	ア 取組効果に対する評価	イ 問題点の要因分析に対する評価	ウ 今後の改善策等に対する評価
<p>(1)アンケート調査</p> <p>・地域が自律的に運営されていると感じている割合 50%以上 ・課題やニーズに応じて中間支援組織から支援を受けていると感じている割合 60%以上</p>	<p>◆まちセンの支援は、地域の皆さんの活動の役に立ちましたか？ 78.3% ◆まちセンの支援により、皆さんの地域において、支援を受ける前よりも自律的な地域運営に取り組んでいると思いますか？ 55.7% ◆今後もまちセンのような総合的・全般的な支援窓口が必要だと思いますか？ 90.3%</p>	<p>2番目の設問が低い評価に留まったことについては、設立4年目を迎え、一定の組織運営ができる体制が構築されたことに伴い、今までのような一律的な支援では自律的な地域運営における効果は期待できなくなっていると考えられる。 また、自律的という表現がわかりにくいいためか、わからないとの回答が23.0%にも上ったことについても、自律的な地域運営とはどのような状態にあるのか等、基本的な部分も含め、引き続きの広報活動を期待する。</p>	<p>区役所職員と混同されている方も多くみられるため、今後も、地活協の周知とまちセンの事業内容について、広報活動の充実を期待する。 また、4年間で培った各種団体との人間関係、信頼関係を基に、自律的な地域運営に向けて、地域毎の分析をしっかり行い、作成した地域診断書を活かし、地域の実情に即したスポット的な支援に期待する。</p>
<p>(2)「I 地域課題への取組」の達成状況</p> <p>目標等の達成状況</p> <p>(2-1)「I 地域課題への取組」の達成状況</p> <p>(2-2)「II つながりの拡充」の達成状況</p> <p>(2-3)「III 組織運営」の達成状況</p> <p>(2-4)「IV 区独自取組」の達成状況</p> <p>(3)その他の効果のあった内容</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催 28年度についても社会福祉協議会のこれまでの実践ベースを活かしながら『地域編集塾』の手法を用い、構成団体間での情報共有や共感の場を創出し、協働喚起を促すことや定期的な話し合いの場の定着を目的に開催され、参加者へのアンケート結果では、『地域編集塾』は「いかがでしたか？」の項目にて「良かった」等が27年度86%から28年度90%となっており、定期的な話し合いの場の必要性についての認識も向上していることから評価できる。 ただし、スーパーバイザーに頼るところが多く、スーパーバイザーと地域の日程調整も容易でなく、また、今年度は初めて住吉区総合防災訓練を実施したこともあり、地域においても模擬訓練等で調整が難しかったことから、実施回数が少なくなったことは残念である。</p> <p>【区内全体会】 過去3年間に開催した際に導き出されたデータを基に現状の地域実情を鑑みテーマ設定し開催され、各々テーマについても、掘り下げを行い事業の立案を実施。地域新聞やHPの作成等、実現可能な事業案も多く立案され、定期的な話し合いの場の必要性について、着実に認識も向上していると評価する。</p> <p>【荏田北ほほえみ協議会】 若い世代が多数出席された全体会を受けて開催した『地域編集塾』は、特に若年層への参加をはたらきかけたことで、通常はほとんど参加されない現役世代が約半数を占めるなど、幅広い市民参画の促進、地域における担い手育成や、人材育成において貢献しており評価できる。 また、ホームページの作成やSNSを活用しての会議案内など具体的で実現可能な事業案が多数立案されたことは、現役世代の負担を軽減する上で必要であり、今後は中間支援組織の支援により実施されることを期待する。</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催</p> <p>【区内全体会】 地域状況に応じ、出席者数に偏りがでたものの区内全12地域から総勢66名もの出席があり、地活協の中核を担っている役員層の出席が多いものの、PTAや青少年指導員など若い層への声かけを強く依頼したため、例年に比べ若年層の参加が多くなったことは、中間支援の目的の1つである「若い世代などの市民参画の促進、担い手育成、人材育成に寄与した」と評価できる。 また、事業を立案したことで事業実施に向けて、より具体的になり、地域が活性化されたといった効果が見られたことは評価できる。</p> <p>【荏田北ほほえみ協議会】 役員・運営委員以外の方も対象としたため、普段は参加されないPTAや事業従事者も多く参加し、新たなつながり、また、拡がりが見られ、支援は有効であったと評価できる。 また、参加者へのアンケート結果では「今後も参加したいですか？」の項目にて「参加したい」が87%となるなど、話し合いの場の重要性を感じられており、継続的開催の運びとなったことは評価できる。</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催</p> <p>事業案の創出を目的とする『地域編集塾』の手法を基本とし、地域に定着する話し合いの場のスタイルを提案していくことは、地域課題に取り組み解決していく上で有効であるため、継続していくことを期待する。 事業案の創出だけでなく、事業の実現に向けても優先度・時間軸・人数軸等で分析をし、協働(コラボ)先とのマッチングの機会を設けるなど支援を強化していくことについては、どのような形、場を設け協働先とマッチングを行うかなど具体的な方法等、提案されることを期待する。</p>
	<p>社会福祉協議会の強みを活かし、区社協・地域支援担当など各部門とも緊密に連携しており、地域福祉の取組みや会議にも参画し、つながりの拡充に寄与しており評価できる。今後は、区社協全体で取り組み作成している、地域の情報が記載された地域台帳を地域診断に反映させ、地域ごとのきめの細かい支援につなげることを期待する。</p>	<p>『地域編集塾』等にPTAなど若い層への参加の促しをしたことから、地域内での「つながりの拡充」につながったことは評価できる。今後は、地域診断を活かし、地域ごとに必要な「つながり」先を共に模索し、情報提供を行うことを期待する。</p>	<p>「地域診断書」や「地域編集塾」の手法を活かし、相互理解が可能になるような交流の場の提供を行い、引き続きつながりの拡充となる支援を期待する。</p>
	<p>地域活動協議会会長会においては、毎回まちづくりセンター情報発信の時間を設け、会計・広報・各種事務手続き・会議開催・消費者問題等の会務運営・事業実施に有効な情報発信を行っている。 また、日常的にも地域へ頻繁に出向き、地域の情報の聞き取りや支援のニーズの把握を行っていることから、各地域実情に応じた支援が行えており評価できる。</p>	<p>日常的な支援は適切に実施されているが、地域活動協議会のキーパーソンへの支援は未だ比重が重く、活動者レベルまでのきめ細やかな支援には至っていない。現状の地活協においては担い手不足のため、特定のキーパーソンにかかる活動の負担が大きいことはやむを得ず、今後は区社協との連携により情報把握に努め、引き続き担い手の育成と人材発掘に努めるよう期待する。 地域主催事業への参加や、各事業ごとの仮精算支援などを行うことにより、信頼関係も一段と深まり、会計処理や事務処理等の意識も一段と向上されつつあるため引き続き支援することを期待する。</p>	<p>現行の適切な地域支援を継続しつつ、「地域編集塾」などの世代間交流による担い手育成と人材発掘の場を地域へ提供し、区社協との情報交換・共有をより深め、地域活動協議会キーパーソンと活動者の支援比重について平均化できることを期待する。</p>
	<p>(2-4)「IV 区独自取組」の達成状況</p>		

5 総合評価

総合評価 I	(1) 地域課題等の把握・分析・整理	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に開催した『地域編集塾』におけるキーワードや項目についてデータ整理・カテゴリ分けを行い本年度は『地域編集塾』全体会において事業の立案をめざして開催した。『地域編集塾』全体会は地域にも定着してきており、現役世代の人材も参加し、話し合いの場の定着に向けて、必要性は感じているものの、話し合いから生まれた課題等の解決には至っていない。新たな事業実施が1事例できたことは『地域編集塾』の成果といえるが、その後の活動につながっていないのが残念である。ただし、荇田北ほほえみ協議会で開催した『地域編集塾』では、スーパーバイザーに頼ることなく受託事業者のみで開催できたことは高く評価できる。 ・日常的に、運営委員会への参加や来庁・訪問時に情報交換を密に行っているため地域からの信頼も厚い。 ・日頃の様々な支援は十分おこなっており評価できるが、区内全12地域活動協議会について、区社協が取り組み作成している地域台帳を基にした、地域毎の大きな方向性を示す上で必要となる地域診断書の作成には至っていない。 ・地域へ出向き把握した課題を地域によるCB/SB事業の受託により解決するなど、自主財源の確保に結びつけるための支援を積極的に実施しており、平成29年度には新たなCB/SB事業の受託に向けた支援もおこなっており、高く評価している。
	(2) 目標(支援策)の明確化とそこに向けた戦略・シナリオの策定	<ul style="list-style-type: none"> ・『“地活協”シンポジウム』開催により、同じ地域活動を行っている先駆的实践者から話を聞いたことにより、地活協の法人化やビジネスの手法・新規事業についての理解・周知度が向上している。 ・事業の立案を目的とした『地域編集塾』のみでなく、負担感を軽減した話し合いの場としてのワークショップの開催支援では、スーパーバイザーに頼ることなく一定の成果をあげることができ、大いに評価しているが、今後は早い段階の実施を期待する。 ・地道に築き上げてきた地域との信頼関係が、地域の組織運営の安定につながっていることは高く評価している。 ・最終目標である地域活動協議会の自律的な運営に向け、これまでの支援を通じて得られたデータ等を活用し、地域活動協議会毎の分析を行い、今後の支援の方向性を地域診断書等により、具体的に示すことを期待する。
	(3) 区のマネジメントに合った取組	<ul style="list-style-type: none"> ・CB/SB事業については、平成28年度は、2事業3地域での取組みであったが、平成29年度については、3事業4地域と拡がっており、相乗効果を生んでいる。 ・『“地活協”シンポジウム』で、地活協をNPO法人化している実践者の話を地域が聞くことにより、ビジネスの手法についての関心度の高まりがみられたことは、地域活動協議会の自律的な運営の促進に寄与している。 ・継続的な支援の結果、特に補助金会計処理にかかるスキルが向上していることは、補助金の公平性、透明性の確保に向けて効果をあげている。 ・今年度、区としては、ニーズの高い会計や広報に係る支援に注力しつつも、「地域編集塾」の全4回(1クール)実施による成功例の実現、地域のCB/SB受託等、自立的な運営に近づくための支援を受託者に求めた。要望の多い日常的な支援をこなしつつも、荇田南地域における『地域編集塾』では、4月に地域としてのやるべきことが明確化され、事業実施を行った。また『地域編集塾』全体会では、地域毎の課題がより明確になった。また、スーパーバイザーに頼ることなく開催した荇田北ほほえみ協議会における『地域編集塾』は、今後の地域の話し合いの場として発展していくことが確認でき、高く評価している。しかしながら、『地域編集塾』の最終目標である、地域活動協議会に属していない市民活動団体やNPO、企業とのマッチングに至らなかったことは残念である。
↓		
総合評価 II	総合評価(全体)	<p>組織運営面としては、申請等事務手続き・会計処理・税務などきめ細かい情報発信や支援等を心がけているため、設立時より着実に根付いており、円滑で安定した組織運営を行えるよう支援ができています。</p> <p>また、『“地活協”シンポジウム』を開催したことで、CB/SBの理解度向上や、新たな取組みへの関心が高まり、つながりの大切さが再認識され、地域が活性化すると行った効果が得られた。また、自主財源の必要性についても認識が深まっている。</p> <p>若い層の巻き込みについては、『地域編集塾』や『“地活協”シンポジウム』を活用し、一定の効果は得られたが、継承していく世代(担い手)に向けた具体的な発掘や育成については、大きな実績をあげられていないため、SNSや広報講座等を開催するなど、具体的な取り組みを深めるよう期待している。</p> <p>地域活動協議会補助金にかかる手続きなどの会計支援等、日常的な支援の中でも、特に地域が負担と感じている手続きや事務について、地域の負担軽減策なども検討しており、適切な説明に加え、帳票や資料作成の支援、仮精算実施の定着など、様々な面で適切に支援している。</p> <p>また、荇田南地域における『地域編集塾』は、区として求めた成功事例の実現を4月に達成している。この事例を元に、今後は各地域に『地域編集塾』の手法の拡大に向けて、引き続き支援するよう期待する。また、今後は『地域編集塾』の最終目標である、地域活動協議会だけでは解決できない課題に対し、地域活動協議会に属していない市民活動団体や、NPO、企業とのマッチングを成功させ、更なる地域の活性化につなげるよう期待している。</p> <p>CB/SB受託による地域課題の解決と、地域活動協議会の自立的な運営に向けた資金調達の支援については、「地下鉄あびこ駅周辺地域自転車利用パートナー事業」において、関係地域同士の協働による課題改善に向かっており、地域同士の強いつながりも生まれている。また、平成29年度には「南海粉浜駅周辺地域自転車利用パートナー事業」において、新たなCB/SB受託に向けた支援も行っており、高く評価している。</p> <p>また、山之内地域における「安心して暮らせる地域づくりに貢献する「広報すみよし」配付業務」の受託に向けた支援については、受託を成功させることで、地域の抱える福祉課題に対し、地域が独自で取り組んできた高齢者の見守り活動と、区が進めている災害時の避難支援と、日常の見守り活動を一体とした「地域見守り支援システム」の構築をより隔々まで、目の行き届いたセーフティーネットにしていくことに、寄与したと考えている。今後は1つの成功事例として地域に広めていくことで、安全で安心なまちづくりを区内全域に広げていけるものと考えており、大変期待している。</p> <p>総合評価としては、概ね当事業に関する区の期待に応えてくれており、評価している。</p>